



車いすを使用している人

車いすは歩くことが困難な人が移動するための用具です。車いすを使用している人の状態は、一人ひとり違います。たとえば、事故などで両足がまひする脊ずい損傷では両腕で車いすをこぎますが、両腕にもまひがある場合には電動車いすを使用します。それぞれの状態にあわせていろいろな車いすがあります。

車いすを使用している人はこんなことに困っています

車いすを利用していると、

- 十分なスペースがなかったり、ちょっとした段差や障害物があるために、移動することができないことがあります。
- 高いところにあるもの、床にあるものなどをとることが困難です。
- ATMや自動販売機等には正面向きでは手が届きません。
- 障害者用駐車スペースが空いていないため、利用できないことがあります。



道路・歩道で

- 歩道橋は渡れないので、横断歩道のある場所まで遠回りしなければならない。
- 信号のかわる時間が短いため、渡りきらないうちに赤になってしまう場合もある。



車いす専用駐車スペースで

- 一般車両が止められている。
- 一般車両の進入をふせぐために安全コーンを置かれると自分で安全コーンを動かさないで駐車できない。



買い物で

高い棚の商品がよく見えない、手が届かない。



車いす対応トイレで

せっかくあるのにカギがかかれたままになっていて使えない。



その他

車いすでは傘がさせないので屋根がないところではぬれてしまう。



車いすを使用している人と接する時は

誰にでも、いつでもできる支援は、歩道などをふさぐように物を置かないこと、歩道をふさいでいる物を取り除くことです。車いすや杖を使用している人の通行を妨げないようにし、ボタンを代わりに押す、乗り降りしやすいようにドアを開けておくことも大切です。

ポイント1 自転車ですれ違うときには、減速する

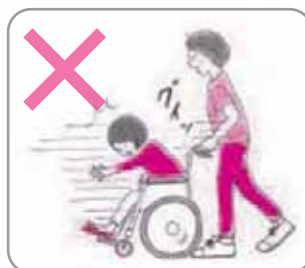
車いすは、急にかわす動きができません。自転車がよけるか減速してください。



ポイント2 まず、声かけ

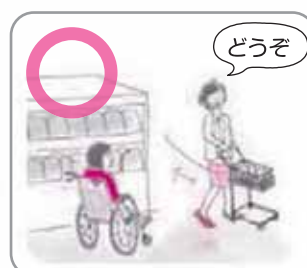
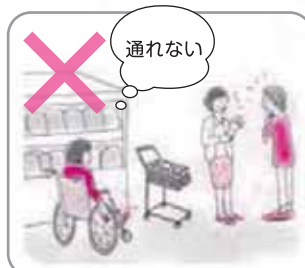
突然、車いすを動かしたりせず、まず声をかけてください。

【例】「なにか、お手伝いしましょうか？」



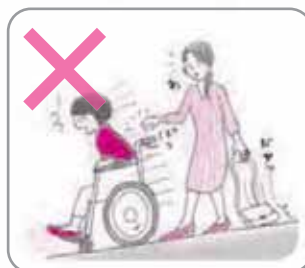
ポイント3 まわりに障害物がないか確認する

車いすでは、自分で障害物を移動させることができません。もし、障害物が通路をふさいで車いすが通れないのを見かけたら、邪魔にならないように動かしてください。



ポイント4 車いすを急に押したり、押す手を急にはなさない

車いすは、少しの傾斜でも動いてしまいます。押しはじめる時にも、押すのをやめる時にも声をかけて安全を確認してください。



ブレーキがかかっているかどうかの確認も忘れずに。

さらに知っておいてほしいこと

電動車いす



モーターの力で動きます。

自動車



車を運転する人は、足でブレーキやアクセルをふむかわりに、手で操作できるよう改造しています。

エレベーター

車いすマークのついた操作盤は、手が届くように少し低い位置にあります。また、とびらの開いている時間が通常よりも長くなっています。

